



平成 29 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社中村超硬
代表者名 代表取締役社長 井上 誠
(コード：6166 東証マザーズ)
問合せ先 取締役社長室長 増田 宏文
(TEL. 072-274-1072)

平成 29 年 3 月期通期業績予想の修正 及び配当予想の修正(無配) 並びに役員報酬の減額に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）において、通期業績予想及び配当予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

また、役員報酬の減額を決定しましたので、併せてお知らせいたします。

記

I. 業績予想の修正について

1. 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,300	460	300	140	30.07
今回修正予想 (B)	5,100	△1,580	△1,770	△2,020	△433.82
増 減 額 (B - A)	△2,200	△2,040	△2,070	△2,160	
増 減 率 (%)	△30.1%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	6,836	1,435	1,440	1,221	144.67

2. 平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,800	220	130	27.92
今回修正予想 (B)	3,500	△1,780	△2,000	△429.53
増 減 額 (B - A)	△2,300	△2,000	△2,130	
増 減 率 (%)	△39.7	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	5,438	1,330	1,172	138.40

3. 修正の理由

(1) 連結業績予想

① 売上高

当社グループの中核事業である電子材料スライス周辺事業におけるダイヤモンドワイヤの販売において、主要顧客との販売単価の交渉過程で生じた取引量の減少に加え、昨年7月以降中国における太陽電池用シリコンウエハメーカーによるウエハの供給過剰に伴う生産調整が行われた影響により、上半期の出荷量は大幅に減少し、また、販売単価も大きく下落しました。

一方で、第3四半期に入ると市況は回復傾向を辿り、また、新たに多結晶シリコンウエハ向けの新仕様製品の販売開始により、平成28年12月単月のダイヤモンドワイヤの販売数量は過去のピークに迫るほどに回復しており、今後も伸長することが見込まれております。

しかしながら、前回想定(平成28年8月5日公表時)したよりも市況の悪化に伴う生産調整の影響を受け、新規大口顧客との取引開始に時間を要したこと等により、通期の販売数量が前回想定値から大幅に減少し(約39%減)、また、販売単価が前回想定よりも約6%下落したことも重なり、ダイヤモンドワイヤの通期売上高は前回想定値から約40%減少する見通しとなりました。

以上の状況により、通期連結売上高は、前回平成28年8月5日に公表しました業績予想数値から30.1%減の5,100百万円となる見通しであります。

② 営業利益

売上原価については、ダイヤモンドワイヤの大幅な販売減に伴う約1,500百万円の減少要因があるものの、生産稼働率低下に伴い原価率が約17%上昇したことによる増加要因(約500百万円)、並びにダイヤモンドワイヤの製品仕様の変更を受け、旧仕様製品に係る棚卸資産の評価減を実施した影響(約850百万円)等により約160百万円の減少に留まる見通しであります。

以上、販売費及び一般管理費についてはほぼ想定通りに推移していることから、営業利益については、前回予想値から2,040百万円悪化し1,580百万円の赤字になる見通しとなりました。

③ 経常利益

経常利益については、営業利益までの悪化要因に加え、平成28年12月まで持分法適用会社であった中超住江デバイス・テクノロジー株式会社の業況悪化に伴い、前回想定より持分法に伴う投資損失約130百万円の増加等により前回予想値から2,070百万円悪化し1,770百万円の赤字になる見通しとなりました。

④ 親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益については、経常利益までの悪化要因に加え、平成28年12月末に連結子会社化した中超住江デバイス・テクノロジー株式会社に係るのれんの減損額83百万円を特別損失に計上したこと等により、前回予想値から2,160百万円悪化し2,020百万円の赤字になる見通しとなりました。

(2) 個別業績予想

売上高及び経常利益の修正理由については、連結業績予想での記載内容と同様、ダイヤモンドワイヤの販売減少及び棚卸資産の評価減によるものであります。

また、当期純利益については、平成28年12月末に連結子会社化した中超住江デバイス・テクノロジー株式会社の業況悪化に伴う当該株式の実質価額の低下を踏まえ、子会社株式の評価減141百万円を特別損失に計上したこと等により、前回予想値から2,130百万円悪化し2,000百万円の赤字になる見通しとなりました。

なお、今回の修正は、当社グループ事業のうち、電子材料スライス周辺事業に起因するものであり、特殊精密機器事業及び化学繊維用紡糸ノズル事業においては、ほぼ計画通りに推移する見通しであります。

今回は、ダイヤモンドワイヤに係る販売数量の減少及び棚卸資産の評価減により業績下方修正に至りましたが、現下の受注量は回復基調にあり今後も増加する見通しであります。今回の棚卸資産の評価減は来期以降の財務体質向上に向けた一時的な減損手続きであり、来期以降の黒字化に向けグループ一丸となって業績改善に取り組んでまいります。

ダイヤモンドワイヤについては、販売単価の下落に伴い、従来に比べ利益を確保するためのハードルが上がっております。しかしながら、ダイヤモンドワイヤは、従来技術的に困難であった多結晶シリコンウエハ向けの切削工具として着実に広がりを見せており、需要の拡大が続くものと予測しております。

当社はこのような状況のなか、市場シェアの拡大を目的に太陽電池向けシリコンウエハ業界における最大手顧客と年間契約に向けて基本的な合意に至りました。また、現在の主力製品である線径 70 μ m から更なる細線化を実現した線径 60 μ m のダイヤモンドワイヤを他社に先駆けて市場に投入していくことで差別化と付加価値向上を図り、投資済み生産設備のフル稼働に向けた受注拡大に取り組んでまいります。加えて、生産効率を上げるための生産設備の改良を継続的に実施し、原価低減に向けた活動を強化し収益力を高めてまいります。

※上記の業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

II. 配当予想の修正

1. 修正の内容

	年間配当金				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回発表予想	—	—	—	10.00	10.00
今回修正予想	—	—	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
前期実績	—	0.00	—	10.00	10.00 (普通配当 5 円 記念配当 5 円)

2. 修正の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を第一として、配当原資確保のための収益力を強化し、継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。

しかしながら、当期の期末配当につきましては、当期の厳しい業績状況を鑑みて、収益改善および財務体質の強化を最優先課題と判断し、期末配当金を誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

なお、今後におきましては、更なる構造改革を推し進めて収益力を強化していくことで、早期の業績回復と復配を目指してまいりたい所存ですので、株主の皆様には、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

Ⅲ. 役員報酬の減額について

今般の業績予想の下方修正及び配当予想の見直しにより無配とさせていただくことに対し、経営責任を明確にするため、以下のとおり役員報酬の減額を実施いたします。

1. 役員報酬減額の内容

代表取締役社長	月額報酬の 20%
その他取締役	月額報酬の 10% (社外取締役を除く)

2. 対象期間

平成 29 年 2 月から平成 29 年 4 月まで (3 ヶ月間)

以 上